

ひろば

2005年3月
No178
＜発行＞
日立小田原地区
「ひろば」
編集委員会
気付
0465(37)4426

「日立GST」日立・IBM 制度統合でどう変わるのか

日立GSTは制度統合のあるべき姿として「W/W（ワイルドワイド）で日立とIBMの「先進制度」を取り入れた」と誇っていますが、そのほとんどが日立制度そのものです。その概略は、...

IBM出身者が驚いたことは

まず驚かれたことは、慶弔休暇の時間割賃金40%カットです。

IBMでは自身の結婚、父母、配偶者、子供の死亡に際して賃金は100%保障となつていますが、新制度では日立同様4割カットとなります。また、私病病欠勤の場合も100%保障が4割カットとなります。

賃金に関する項目では

IBM出身者のほとんどが昇給ゼロ、減給者も...。それそれ本給の上限が設定され、上級専任職（主任部員）最高額40万円、一級専任職（副主任）最高額33万円が定められているため、賃金の高いIBM出身者のほとんどが現行生

涯保障「調整給」となり、昇給ゼロ、または減給となる可能性があります。また、時間外勤務手当増率もダウンとなります。残業、休日手当が平日5%、休日10%、深夜5%がそれぞれダウンとなります。

いずれにせよ、日本IBM出身者には、賃金を中心に大幅な不利益変更となります。

改善された点は

8時間労働から、7時間45分に賃下げなしの15分時短となり、年間60時間となります。土曜日と祝日が重なる場合、金曜日が休日となります。特別休日として12月30日・1月4日が休日又、5月1日のメーデーも休日となります。

日立出身者は

ほとんどが日立制度の継承となるため大幅な変更はありませんが、給料日が毎月28日から24日になります。総合職の呼称がBand制となりそれぞれ研修員、Band6B、Band6A、Band7となります。

社会的存在として企業の「コンプライアンス」を

3月は卒業、就職の季節、新卒者には夢と希望が溢れる生活が始まる時期でもあります。

かつて新卒一括正規採用で社会人生活が始まったものが、日本型雇用の転換で職業感がくずれはじめました。

多くの青年たちは正規雇用であっても長期雇用は前提とされず、いつ放り出されるかわからない、残れるのは企業の幹部社員候補である一部の若者に限られ始めたといっても言い過ぎではないでしょう。

少なくない企業は数々の不祥事を働き社会的な批判を受け、いま企業法令遵守(コンプライアンス)に否応無く取りくんでいます。

このなかには企業の社会的な責任として「雇用の創出」、「税金の納入」、「メセナ活動」等、企業の本質的な課題として考えられるようになっており、企業のあり方が鋭く問われています。

日立労組GST支部として二度目の春闘となりました。景気・業績改善の兆しの見えた情勢のもと、一時金に欠けた5ヶ月を超える5・2ヶ月と積極的な要求を掲げ、期待の大きかった05春闘の回答が始めまりました。要求提出後の業績悪化を理由に、期待を裏切り、昨年実績月数(4・65ヶ月)にも届かず、昨年実績額1,398,

それにしても今度のGST支部と会社の交渉は解せませんでした。要求提出から回答指定日まで本体(日立 日立労組)の交渉の後塵を拝し、翌日、様子見の交渉が続きました。

日立GSTの税引き前利益が予算比マイナス393億となり、1000億を予定していた日立グループの業績を400億も下

会社はワイルドワイド、

春闘交渉は旧態依然

658円(4・56ヶ月)の回答となり多くの組合員の切実な願いを裏切る結果となりました。

定期昇給制度が廃止され、生活改善の保障がないなか、定率減税半減、厚生年金の負担増と社会保障費が可処分所得を減額させ、生活をいつそう苦しいものにしていきます。せめて一時金にどの願いもむなしく、要求には届きませんでした。

方修正させ、多大な迷惑をかけたとの会社主張に屈服したかたちになりました。

本体から切り離された多くの子会社が味わう悲哀を例外なくわが日立労組GST支部の組合員も受けるということか...。ちなみに同じ構内で働くRSD事業部・SSD事業部は日立本体在籍として、4・82ヶ月の回答でした。

湘南の海

2月12日、3日連休の中、早春の暖かい日が続きました。朝一番に新聞のテレビ欄を見て目を疑いました。今日、楽しみにしていたラグビー日本選手権、トヨタ自動車vs早大の試合がNHK総合午後2時から生中継の予定が消え、深夜の録画放送となりました。なんとしてもリアルタイムで試合を観たいの思いがつのり小田急特急に飛び乗り秩父宮ラグビー場に急ぎました。大学選手権を圧倒的強さで制した早大がトップリーグ4位とは言え、社会人強豪のトヨタにどう挑むかファンには大変関心の高い試合でした。メインスタンドもパツクスタンドも超満員、試合は早大の学生らしい生きのよいプレーで、後半残り10分までリードを守り、トヨタの外国人選手のサイド攻撃を、低く鋭いタックルの連続でくい止め、スタンドをおおいに沸かせました。最後は力尽きましたが、社会人の「差」が縮まったと実感できる見ごたえのある試合でした。それにしてもNHKのとった態度です。当日は要望や問い合わせが殺到し、当初の予定通り生中継することになりましたが、視聴者を無視し、「自分たちの都合」だけで予定していた番組を変更してしまう神経には、公共放送としての自覚も責任も感じ取ることができません。この発端は、旧日本軍による慰安婦問題を扱った番組の改変をめぐり、朝日新聞の報道、公共放送への政治家の介入などを争点とした論争がおきており、レフリーの胸に「朝日新聞」のロゴマークが入っていることが問題となりました。中立であるべきレフリーにロゴマークを付けさせる協会にも首を傾げますが、それにしても、責任をとって辞任したはずの海老沢元会長を顧問に据え批判を浴び、「自分たちの都合で」約束した放送を取り止め、「こんな事態になるとは思ってもいなかった」NHKのノー天気ぶりには、70万人の受信料支払い拒否が突きつけられました。

ひろば掲載URL <http://www.hitachikon.net/hiroba>